

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・ 中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・ 低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・ カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・ 幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・ 各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・ 各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・ 各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・ 高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

小学校教育

教科等の特質に応じた「見方や考え方」や資質・能力を
育むとともに、
教科横断的にそれらを総合・統合していく学び

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、
合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った
姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、
幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方」や資質・能力を、
徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期

接続期

幼児教育

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、
幼児の得意なところや苦手なところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、
より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成
に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方や考え方」や資質・能力を育む時期

遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた
「見方や考え方」や資質・能力を育む学び

「見方や考え方」や資質・能力をさらに成長させる
中学年以降の学びへ

国語 言葉で表現したり、理解したりすることを通して、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりすること、また、表現したり理解したりするものの言葉の働きや仕組みを捉えること。	算数 事象を数理的に捉え、論理的に考え、統合的に考察すること	生活 身近な自然事象や社会的事象を、規則性や関係性といった視点で捉え、それらを比較、分類、関連付け、工夫、試行、予測することなどを通して、自分自身との関係にも気づきながら考察すること。	音楽 音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、イメージや感情、生活や社会、文化等との関わりについて音楽活動を通して考えること。	図工 感性や想像力等を働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、自分や他者との関わりや、生活、社会等との関係の中で、見たり創造的に考えたりすること。	体育 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ楽しさや喜びを見出し、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら「する・みる・支える」等豊かな関わり方について考察すること	道徳 様々な事象を道徳的価値との関わりで多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方や在り方について考察すること	特活 集団や社会の形成者という視点から様々な諸問題を捉え、各教科等で培った見方や考え方を効果的に活用して、よりよい学級・学校生活や社会及び自己の実現に向けて考察し、実践すること。
--	--	--	--	---	--	---	---

※各教科等における「見方や考え方」は各WGにおいて検討中。

「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量・図形、文字等への関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。
また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したものではない。

生活科のイメージ (たたき台)

平成 2 8 年 4 月 2 5 日
生活・総合的な学習の時間WG
資料 2-2

(社会、理科の見方や考え方については、社会・地理歴史・公民ワークキンググループ、理科ワークキンググループでそれぞれ検討中)

小学校 中学校	小学校 低学年	国語 算数	社会	総合的な学習の時間	理科	図画工作 音楽 体育 道徳 特別活動	（社会、理科の見方や考え方については、社会・地理歴史・公民・科学・技術・情報・外国語・芸術・体育・道徳・特別活動とそれぞれ連携中）
教科等の特質に応じた「見方や考え方」や資質・能力を育むとともに、教科横断的にそれらを総合・統合していく学び 生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期 「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、幼児の得意なことや更に伸ばしたいところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、パラスよく「見方や考え方」や資質・能力を育む時期 遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた「見方や考え方」や資質・能力を育む学び							

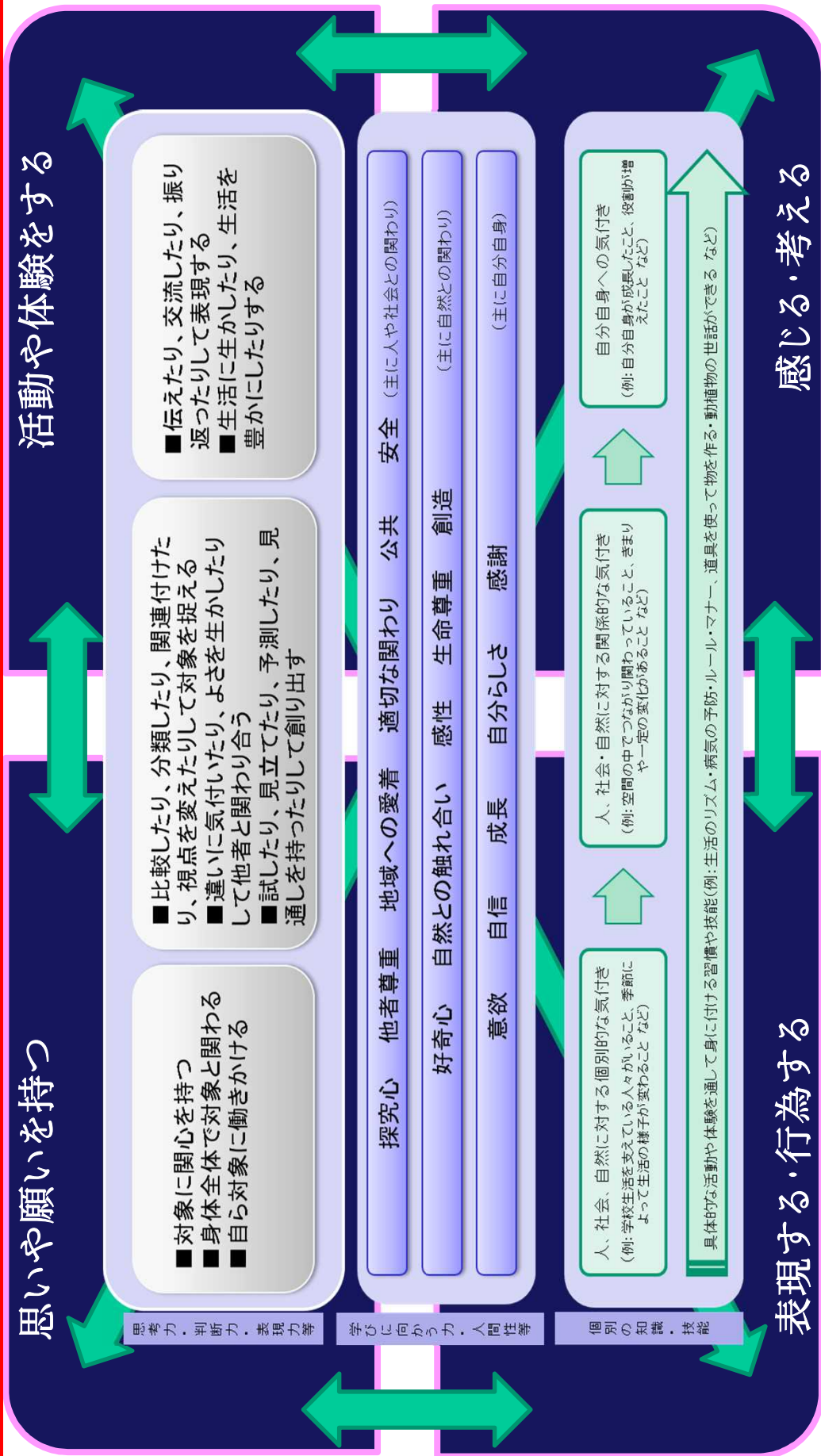
	視点	学習 対象	個別の知識や技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)	思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようなったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)	学びに向かう力、人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よい生活を営むか)
生活 小学校	【自分と人 や社会との かかわり】 健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公共の意識とマナー、生産と消費、情報と交流（ア～カ）	① 学校の施設 ② 学校で働く人 ③ 友達 ④ 通学路 ⑤ 家族 ⑥ 家庭 ⑦ 地域で生活したり働いたりしている人 ⑧ 公共物 ⑨ 公共施設 ⑩ 地域の行事・出来事	■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、社会事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、社会事象に関する関係的な気付き	■ 身体を通して関わり、対象に直接働きかける力 ■ 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■ 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
	【自分と自然との かかわり】 身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫（キ～ケ）	⑪ 身近な自然 ⑫ 身近にある物 ⑬ 動物 ⑭ 植物 ⑮ 自分のこと	■ 具体的な活動や体験を通して獲得する、自然事象に関する個別的な気付き ■ 具体的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する関係的な気付き	■ 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う ■ 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力 ■ 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■ 身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度 ■ 自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする態度
	【自分自身】 成長への喜び、基本的な生活習慣や生活技能（コ、サ）		■ 具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能		

学
習
上
の
自
立

精
神
的
な
自
立

生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方(イメージ・案)

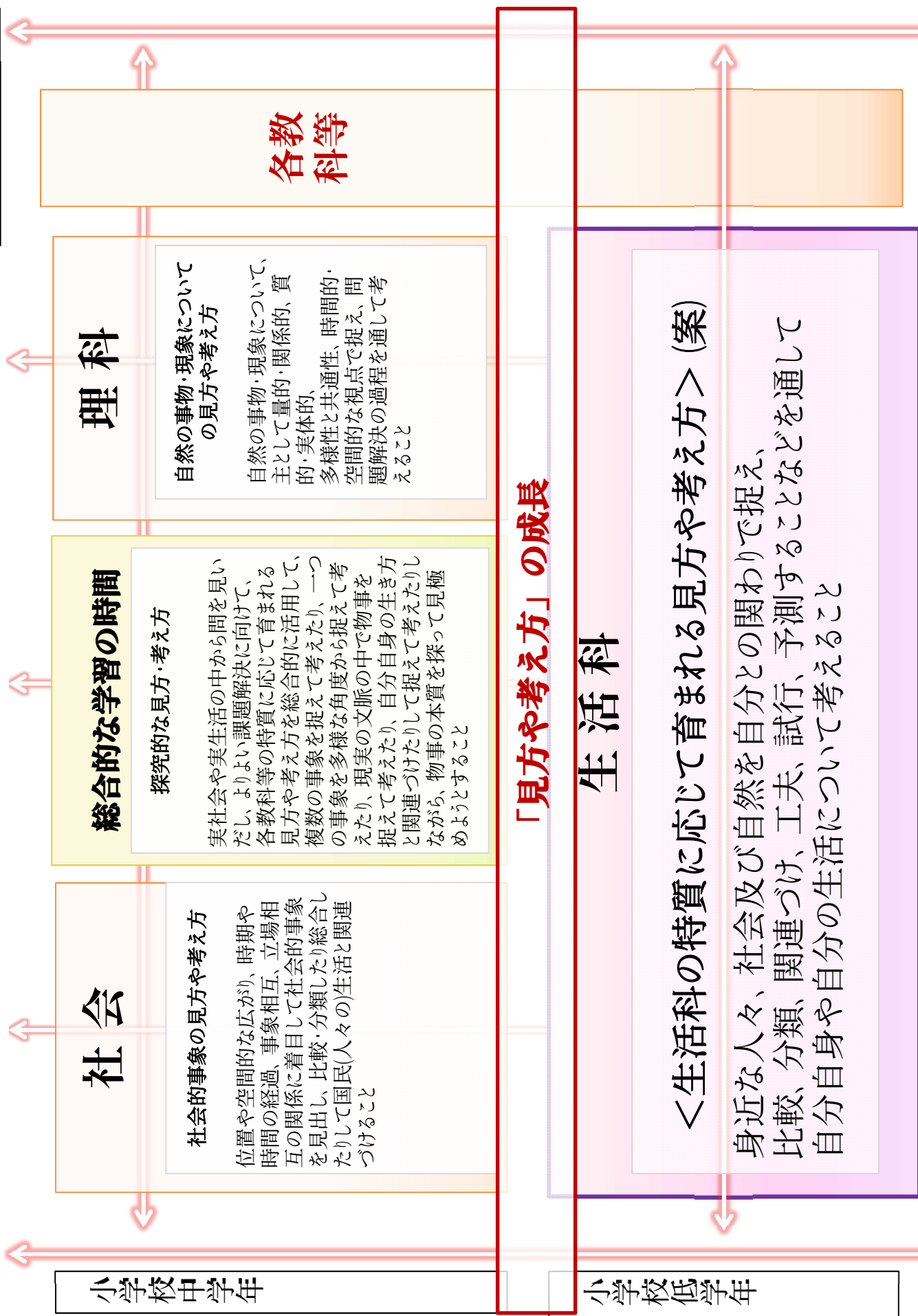
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、
比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること



＊生活科では上記の学習活動が一体的に行われ、体験と表現が繰り返される。
(それぞれの資質・能力が、特定の活動にだけ対応しているわけではない)

生活科の見方や考え方（たたき台）

（見方や考え方については、各ワーキンググループでそれぞれ検討中）



生活科の評価の観点(案)

生活科の評価の観点(案)

評価の観点	身近な環境や自分についての 気付き及び生活上必要な習慣や技能	身近な環境や自分についての 思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨 (イメージ)	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関係性に気付いている 生活上必要な習慣や技能を身に付けている	生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方を生かして体験や活動を行うことを通じて、自身や自分の生活について考え表現している	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、自立し生活を豊かにするよう自信をもって進んで行動しようとしている

(備考) 小学校低学年は、観点別の評価のみを行い、数値による評価は行わないこととしている。

〔小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)〕(平成22年5月初等中等教育局长通知)

(参考) 総則・評価特別部会で示された観点の例

観点 (例) ※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ (例) ※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討	(例) ○○を理解している／○○の知識を身に付けている ○○することができ／○○の技能を身に付けている	(例) 各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通して、考えたり判断したり表現したりしている	(例) 主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を、総合的な学習の時間で総合的に活用
総合的な学習の時間において各教科等の見方や考え方を使うことで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の見方や考え方が成長し、
深い学びが実現

※理数探究（仮称）、情報科の新たな共通必修科目との関係を踏まえ、
探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化すべきではないか。

【高等学校】

◆学習指導要領で示す目標（イメージ）

総合的な時間の特質に応じて育まれる探究的な見方や考え方を使って探究することを通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自らの主体的に判断し、多様な他者と協働（協同）して、よりよく課題を解決し自己の在り方生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

- 課題を探究することを通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解する
- 実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方を用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようになる
- 実社会や実生活の中から積極的な問いを見出し、主体的・協同的（協働的）に問題の解決に取り組む、学習したことを自己の在り方生き方に生かし、主体的に新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めさらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【中学校】

◆学習指導要領で示す目標（イメージ）

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用しながら探究的に学習することを通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協同（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

- 問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する
- 実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方を用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようになる
- 実社会や実生活の中から積極的な問いを見出し、主体的・協同的（協働的）に問題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に社会に参画し次の課題に取り組もうとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】

◆学習指導要領で示す目標（イメージ）

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用しながら探究的に学習することを通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協同（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

- 問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する
- 実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方を用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようになる
- 実社会や実生活の中から積極的な問いを見出し、主体的・協同的（協働的）に問題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、進んで地域・社会の活動に参加し次の課題に取り組もうとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて
総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年3月24日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-3

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのような社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究することの意義や価値の理解]	○ 探究することを通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 など
中学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究的な学習のよさの理解]	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。 など
小学校	○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 [○ 探究的な学習のよさの理解]	○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など	○ 主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組みようとする態度を育てる。 ○ 協同的な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。 など

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動を支える

総合的な学習の 特質に応じて 育まれる 探究的な 見方や考え方 (イメージ・案)	高等学校	実社会や実生活の中から問を見いだし、よりよい課題解決と新たな価値の創造に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>広範かつ複雑な事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の複雑な文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の在り方生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探って見極めようとする</u> こと
	中学校	実社会や実生活の中から問を見いだし、よりよい課題解決に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>広範な事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探って見極めようとする</u> こと
	小学校	実社会や実生活の中から問を見いだし、よりよい課題解決に向けて、各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、 <u>複数の事象を捉えて考えたり、一つの事象を多様な角度から捉えて考えたり、現実の文脈の中で物事を捉えて考えたり、自分自身の生き方と関連づけたりして捉えて考えたりしながら、物事の本質を探って見極めようとする</u> こと

各教科等の特質に応じた見方や考え方を
総合的な学習の時間で総合的・統合的に活用

総合的な学習の時間において
各教科の見方や考え方を使うことで、
多様な文脈で使えるようになるなど、
各教科等の見方や考え方が成長し
各教科等の「深い学び」を実現

国語

言葉で表現したり、理解したりすることを通して、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりすること、また、表現したり理解したりすると、きの言葉の働きや仕組みを捉えること。

算数

事象を数理的に捉え、論理的に考え、統合的に考察すること

生活

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること

音楽

音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きを捉え、音楽的な特徴と、イメージや感情、生活や社会、文化等との関わりについて音楽活動を通して考えること。

図画工作

感性や想像力等を働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、自分や他者との関わりや、生活、社会等との関係の中で、見たり創造的に考えたりすること。

体育

運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ楽しさや喜びを見出し、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら「する・みる・支える」等の豊かな関わり方について考察すること

道徳

様々な事象を道徳的価値との関わりで多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方や在り方について考察すること

特別活動

集団や社会の形成者という視点から様々な諸問題を捉え、各教科等で培った見方や考え方を効果的に活用して、よりよい学級・学校生活や社会及び自己の実現に向けて考察し、実践すること。

※各教科等における「見方や考え方」は各WGにおいて検討中。

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係（案）

平成 28 年 4 月 25 日
生活・総合的な学習の時間WG
資料 3-4

■小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる	■手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し分析する	■問題状況における事実や関係を把握し理解する ■多様な情報の中にある特徴を見付ける ■課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える	■相手や目的、意図に応じて分かちややすくまとめ、表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	○課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）			
	○自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解）			
	○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性）			
	○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解）			
	○探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献）			

知識	実社会の課題に関する事実的知識 [※] の獲得		概念的知識 [※] の形成	
※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めているため、知識の具体は各学校において異なる。				
技能	課題設定のスキル	情報収集のスキル	思考のスキル	表現のスキル
(比較・分類・関連付け)				
■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する				
■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する				

■中学校

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法 ■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	■目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し、多角的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■視点を定めて多様な情報を分析する ■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える	■相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	○課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えてことができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化）		
探究活動と他者や社会	○互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとなつながら、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献）		

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識[※]の獲得

概念的知識[※]の形成

※総合的な学習の時間では各学校において定めていることとされているため、知識の具体は各学校において異なる。

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法 探究活動と自分自身 探究活動と他者や社会	■複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する	■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実証的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演えき的に考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える	■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす
	○課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）			
	○自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもって探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解）			
	○探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、（内面化）			
	○互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性）			
	○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解）			
	○探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へとつながり、社会の形成者としてよりよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献）			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成

学ぶことの意義や価値の理解

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

（比較・分類・関連付け・多面的・構造的）

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

3

発達の段階や教科・領域の特質に応じた 探究する力の育成イメージ(たたき台)

平成28年4月25日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-6

探究・・・物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み

高等学校における総合的な学習の時間、課題研究、理数探究(仮称)

- 各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用するとともに、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性に関連づけながら見方や考え方を組み合わせて統合させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。

各教科

- 各教科の特質に応じて育まれる見方や考え方を活用しながら、各教科の本質的な理解等に向けて探究することのできる力を育成する。
- 各教科の本質的な理解等に向かうことが重要であることから、問いについては教師が効果的に設定しながら、学習者自身が知識等を構造化できるような学習過程を設定する場合と、学習者が問いを見出すことができるような学習過程を設定する場合とがある。

小・中学校の総合的な学習の時間

- 各教科等の特質に応じて育まれた見方や考え方を総合的に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。
- 探究的な学習が自己の生き方に関わるものであることに気付く。

※上記のような力を育成する手立て(学習のプロセスや学習活動)としての「探究」が各教科等で行われている。
(各教科等によって、学習のプロセスや学習活動は異なる。)

総合的な学習の時間の評価の観点(案)

○総合的な学習の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述することとしている。

○観点の設定の仕方については、現行では、以下の3つを例示。

(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)) (平成22年5月初等中等教育局長通知)

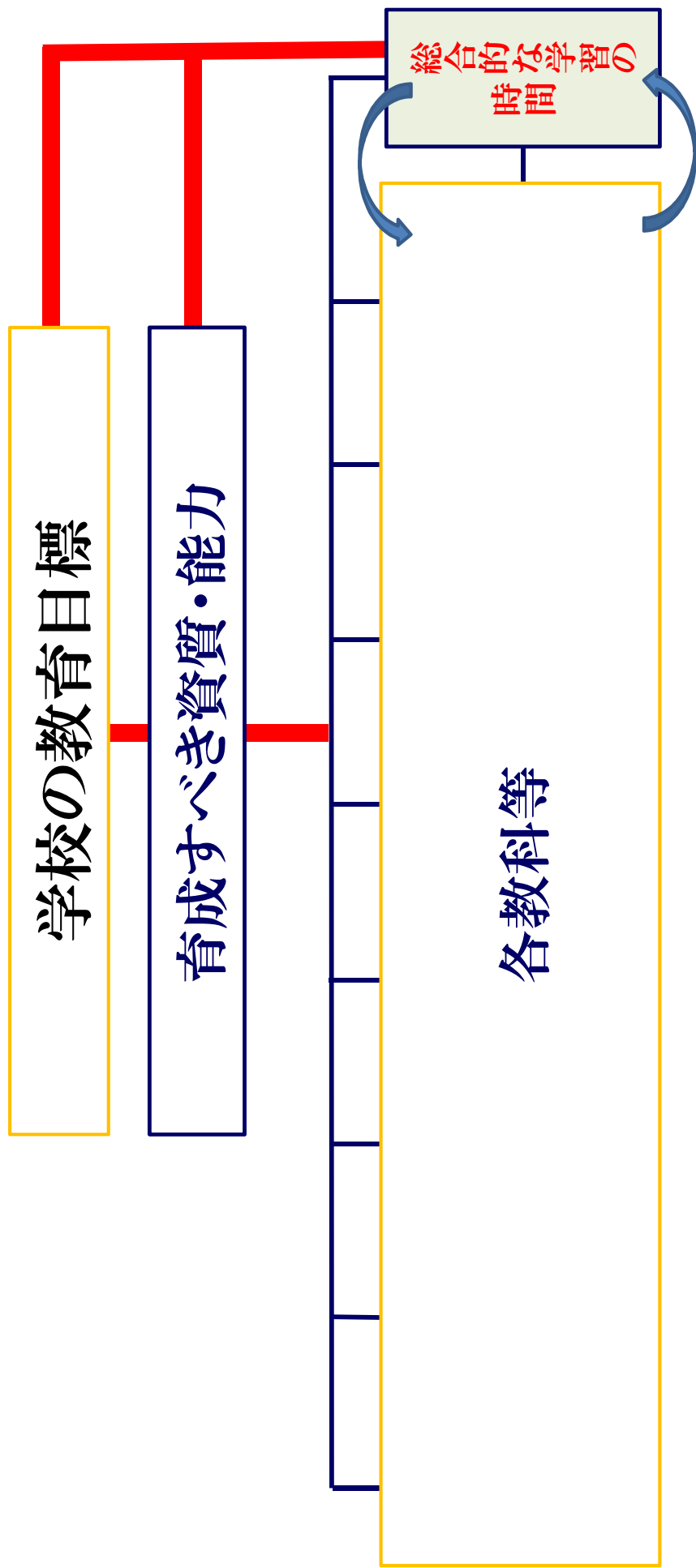
- ①学習指導要領に定める総合的な学習の時間の目標を踏まえた設定
(「よりよく問題を解決する資質や能力」「学び方やものの考え方」「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」「自己の生き方」)
- ②「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の観点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて設定
- ③教科との関連を明確にした設定
(総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」)

○ 今般の全教科横断的な評価の観点の見直しの方向性を踏まえると、今後総合的な学習の時間の評価について、各学校において教科との関連を明確にした評価の観点を設定する場合には、以下のような趣旨による設定が適当ではないか。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨 (イメージ)	高等学校 学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている <u>探究することの意義や価値を理解している</u>	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、 <u>主体的にさらに高次の課題に取り組もうとしている</u>
	中学校 学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている <u>探究的な学習のよさを理解している</u>	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、 <u>積極的に次の課題に取り組もうとしている</u>
	小学校 学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている <u>探究的な学習のよさを理解している</u>	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、 <u>進んで次の課題に取り組もうとしている</u>

カリキュラム・マネジメントのイメージ

カリキュラム・マネジメントの実現



※ 総合的な学習の時間の目標は、各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになることが求められるため、学校の教育目標と直接的につながる。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】（教育課程企画特別部会論点整理より）

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

特別活動ワーキンググループにおける検討事項

1. 特別活動を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・特別活動を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・小学校、中学校、高等学校における特別活動で育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・特別活動における学級・ホームルーム活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事と、育成すべき資質・能力との関係について
 - ・特別活動で育成すべき資質・能力と、社会の要請（防災や社会参画など）に応じた活動内容との関係について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき特別活動の指導等の改善・充実の在り方について
3. 「社会に開かれた教育課程」を実現していく上での特別活動の意義や役割について
4. スタートカリキュラムなど、学校種間の円滑な移行を図る上での特別活動の意義や役割について
5. 小学校、中学校、高等学校の連続性を踏まえた評価の在り方について
6. 必要な支援（特別支援教育の観点を含む）や条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

【資質・能力の視点】

- ◇人間関係を形成する力
- 社会に参画する力
- 自己を生かす力

【高等学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- ホームルーム・学校や地域・社会の問題を把握し、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、自主的・実践的に責任ある行動をとることができる。
- 自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、主体的に日常生活や自己の在り方を改善することができる。
- 多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して主体的に自己の生き方を選択することができる。

【中学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇自己や他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるよう積極的にコミュニケーションを図るなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図って解決策を決め、自主的・実践的に取り組むことができる。
- 自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ主体的に日常生活を改善することができる。
- 情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して暫定的な自己の生き方を主体的に選択することができる。

【小学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇助け合ったり協力し合ったりして、相手を信頼し支え合い、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域の問題に気付き、解決方法などを話し合って決め、解決のために自己の役割や責任を果たして、自主的・実践的によりよい生活をつくることができる。
- 自己の課題に気付いて生活を改善したり、自己のよさを生かして主体的に活動したりすることができる。

【幼児教育】

（自立心）

- ・自分の力で行うために思いを巡らし、自分でしなければならぬことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自身を持って行動するようになる。

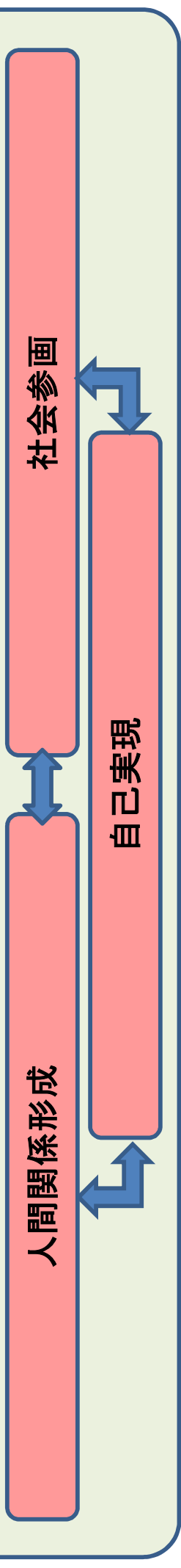
（協同性）

- ・友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

特別活動において育成すべき資質・能力の視点について(案)

平成28年2月24日
教育特別課程活動部
資料2

育成すべき資質・能力の視点

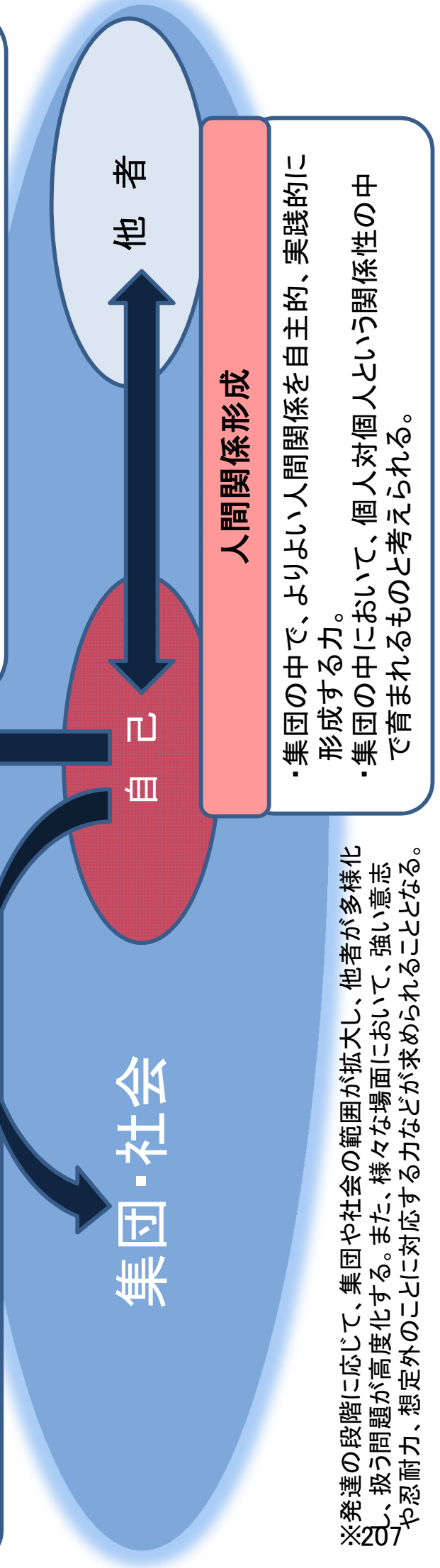


社会参画

- ・よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・集団の中において、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる。

自己実現

- ・集団の中で、自己の生活の課題を発見しより改善する力や自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方生き方を考え設計する力。
- ・集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。



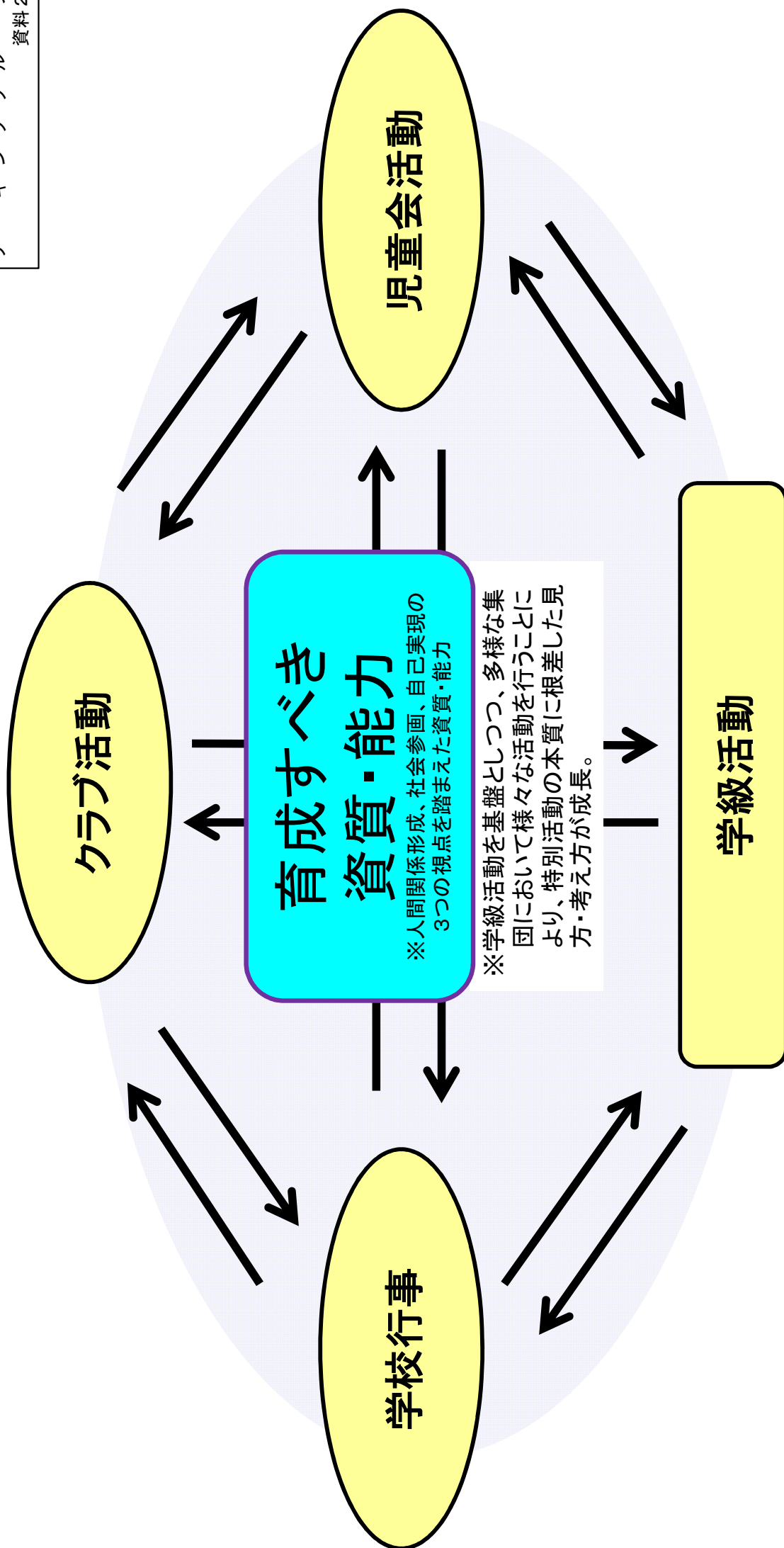
※発達の段階に応じて、集団や社会の範囲が拡大し、他者が多様化し、扱う問題が高度化する。また、様々な場面において、強い意志や忍耐力、想定外のことに対応する力などが求められることとなる。

育成したい資質・能力を、「人間関係の形成」、「社会参画」、「自己実現」という視点から整理

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか) 集団の運営に関する方法や基本的な生活習慣等	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか) よりよい集団の生活や 集団の中で自己を形成していく力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか) 集団の中で自己の役割や責任を 自主的・実践的に果たす態度等
高等学校	◇人間関係の大切さ、集団や社会、多様な他者との関係の中でコミュニケーションを図る方法の知識・技能。 ○ホームルーム・学年、学校や地域・社会の形成者として、チームワークの重要性や集団活動における自分の役割やその意義についての知識・技能。 □社会規範やマナー、社会的役割や責任の必要性や意義、それに向けて今取り組むべき学習や活動の理解。 □将来設計の立案と社会的移行についての知識・技能。	◇自己や価値観の違う多様な他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、よりよい人間関係を築くことができる力。 ○ホームルーム・学年、学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、責任ある行動をとることができる力。 □自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、日常の生活や自己の在り方を改善することができる力。 □多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して自己の生き方を選択・形成することができる力。	◇自己や価値観の違う多様な他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境や人間関係を生かそうとする態度。 ○ホームルーム・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度。 ○ホームルーム・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題や想定外の事態に対し、多様な他者と協働して解決しようとする態度。 □自己理解の深化や自己受容等に基づき、日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとする態度。 □生きがいややりがいがあり、自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度。
中学校	◇人間関係の大切さ、集団や地域の中でコミュニケーションを図る方法の知識・技能。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における自分の役割についての知識・技能。 □学校・社会生活におけるルールやマナー及びその意義についての知識。 □将来の職業生活との関連における今の学習の必要性や意義の理解。	◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるようにコミュニケーションを図るなど、よりよい人間関係を築く力。 ○学級・学校や地域・社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、取り組むことができる力。 □自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ日常生活を改善することができる力。 □情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成することができる力。	◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解し、新たな環境や人間関係に適応しようとする態度。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題に対し、他者と協働して課題を解決しようとする態度。 □自己のよさや個性を生かしつつ日常生活を主体的に改善しようとする態度。 □将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考えようとする態度。
小学校	◇人間関係の大切さ、集団の中でコミュニケーションを図るための方法の知識・技能。 ○学級や学校の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における役割分担の仕方についての知識・技能。 □学校生活のきまりや基本的な生活習慣についての知識・技能。	◇多様な他者と助け合ったり協力し合ったりして、進んでよりよい人間関係を築く力。 ○学級や学校における問題に気付き、解決方法などを話し合って決め、自己の役割や責任を進んで果たすことができる力。 □自己の課題に気付き、生活を改善したり活動したりすることができ力。	◇活動の目標を設定し、協力し合って達成しようとする態度。 ○学級・学校の形成者として、よりよい学級・学校生活をつくらうとしたり、希望や目標をもって現在の生活を改善したりしようとする態度。 ○学級・学校の形成者として、多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を図ろうとする態度。 □学校生活の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度。

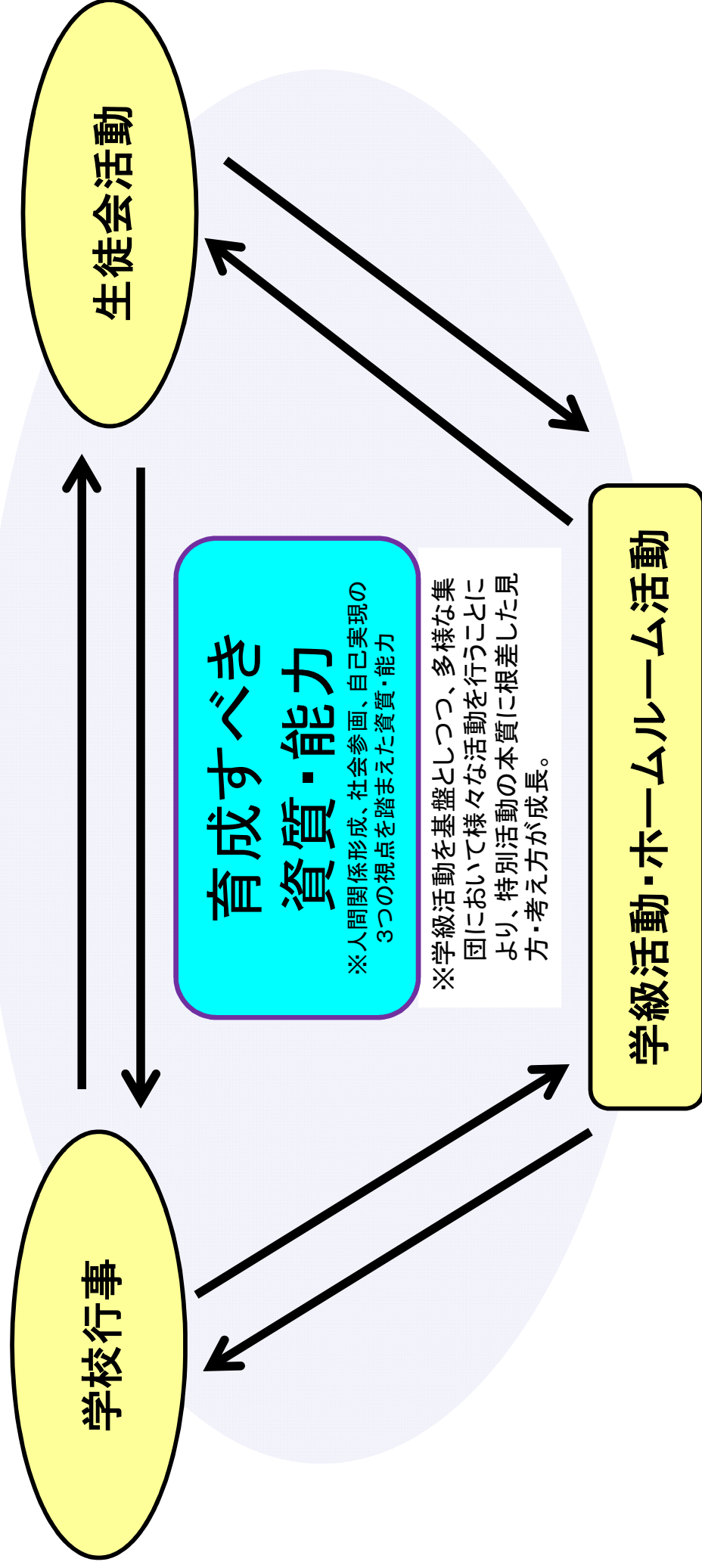
よりよい学級・学校生活づくりや人間関係の形成が、教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点を支える

特別活動における各活動の整理(案)(小学校)



【特別活動の基盤】

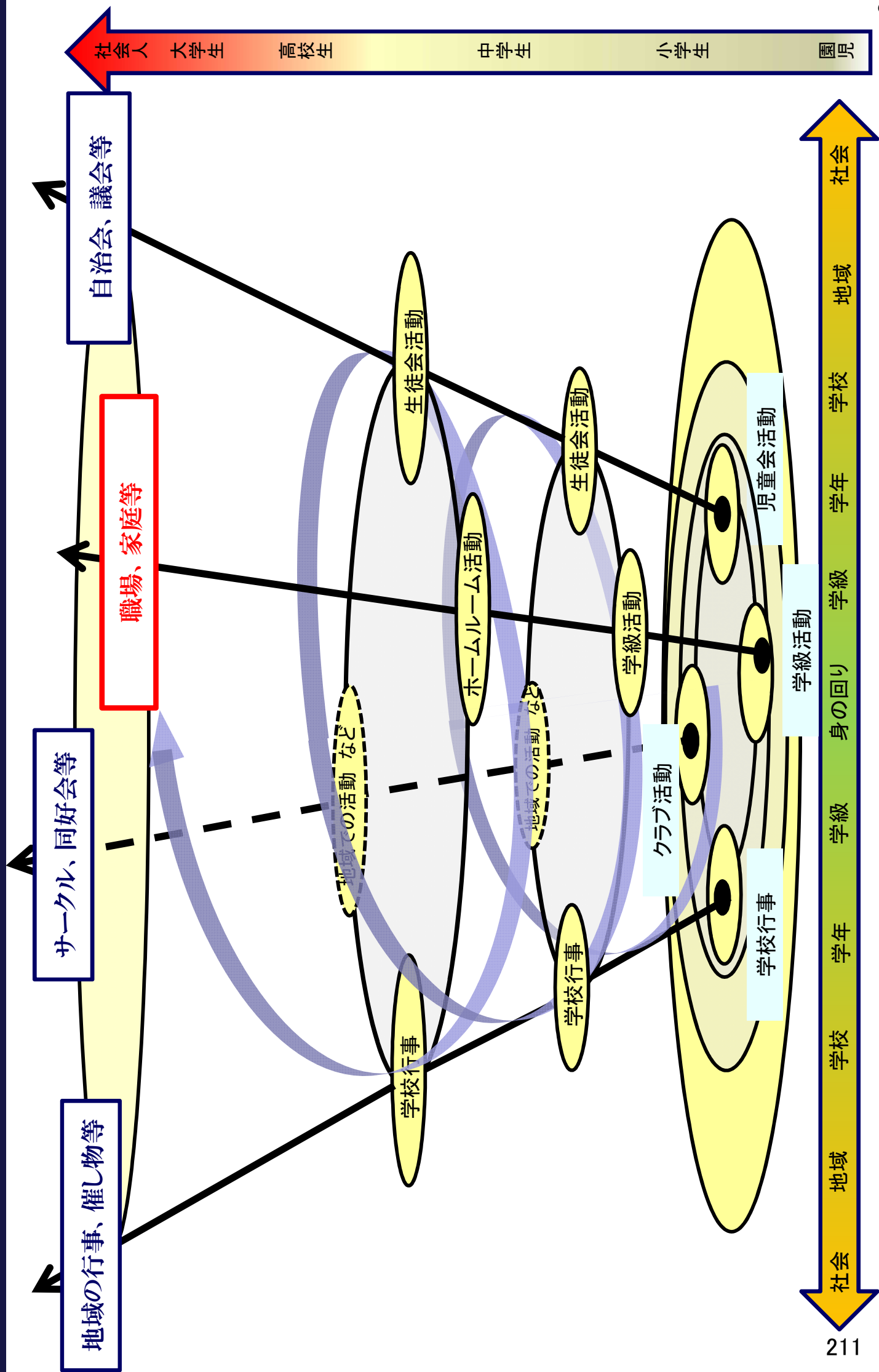
- ・学級・学校生活における基本的な集団における活動。
- ・「学級や学校の生活づくり」、「日常の生活や学習への適応及び健康安全」について学習する中で、基盤となる資質・能力を育成。



【特別活動の基盤】

- ・ 学校生活における基本的な集団における活動。
- ・ 「学級や学校の生活づくり」、「適応と成長及び健康安全」、「学業とキャリア」について学習する中で、基盤となる資質・能力を育成。

特別活動における各活動の整理(イメージ案)



	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校	◇人間関係の大切さ、集団の中でコミュニケーションを図るための方法の知識・技能。 ○学級や学校の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における役割分担の仕方についての知識・技能。 □集団活動の意義の理解や学校生活のきまりや基本的な生活習慣についての知識・技能。	◇多様な他者と助け合ったり協力し合ったりして、進んでよりよい人間関係を築く力。 ○学級や学校における問題に気付き、解決方法などを話し合って決め、自己の役割や責任を進んで果たすことができる力。 □自己の課題に気付き、生活を改善したり活動したりすることができ力。	◇活動の目標を設定し、協力し合って達成しようとする態度。 ○学級・学校の形成者として、よりよい学級・学校生活をつくろうとしたり、希望や目標をもって現在の生活を改善したりしようとする態度。 ○学級・学校の形成者として、多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を図ろうとする態度。 □学校生活の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度。
学級活動 特別活動において基礎となる資質・能力を育む活動	同年齢の身近な集団における活動を通して獲得する知識・技能 身近な生活集団についての意義や役割についての理解		同年齢の身近な集団における活動を通して、 ◇協力して目標を達成しようとする態度を育成 ○現在の生活を改善しようとする態度を育成 ○他者の意見を尊重し、合意形成を図ろうとする態度を育成 □自分のよさや可能性を生かそうとする態度を育成
児童会活動	異年齢により構成する役割を共有する集団における自治的な活動を通して獲得する知識・技能。 自治的組織についての意義や役割についての理解		異年齢により構成する役割を共有する集団における自治的な活動を通して、主に ◇協力して目標を達成しようとする態度を育成 ○よりよい学校生活をつくろうとする態度を育成
クラブ活動	選択した同好の集団における活動を通して獲得する知識・技能。 同好の集団についての意義や役割の理解		選択した同好の集団における活動を通して、主に ◇協力して目標を達成しようとする態度を育成 □自己肯定感や向上心を持ち、自分のよさや可能性を生かそうとする態度を育成。
学校行事	学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して獲得する知識・技能。 行事についての意義や役割についての理解		学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して、主に ◇協力して目標を達成しようとする態度を育成 ○所属感、連帯感、公共の精神などをもって、よりよい学級・学校生活をつくろうとする態度を育成 儀式的行事：厳かな場において規律、気品ある行動をとろうとする態度 文化的行事：文化芸術に親しもうとする態度 健康安全：身体的行事：心身ともに健全な生活を実践しようとする態度 満足・集団宿泊的行事：自然や文化に親しもうとする態度 勤労生産・奉仕的行事：ボランティア精神、進んで奉仕しようとする態度

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
中学校	◇人間関係の大切さ、集団や地域の中でコミュニケーションを図る方法の知識・技能。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における自分の役割についての知識・技能。 □集団活動の意義の理解や学校・社会生活におけるルールやマナー及びその意義についての知識。 □将来の職業生活との関連における今の学習の必要性や意義の理解。	◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるようにコミュニケーションを図るなど、よりよい人間関係を築く力。 ○学級・学校や地域・社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、取り組むことができる力。 □自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ日常生活を改善することができる力。 □情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成することができる力。	◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解し、新たな環境や人間関係に適応しようとする態度。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくるようとする態度。 ○学級・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題に対し、他者と協働して課題を解決しようとする態度。 □自己のよさや個性を生かしつつ日常生活を主体的に改善しようとする態度。 □将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考えようとする態度。
学級活動	同年齢の身近な集団における活動を通して獲得する知識・技能 身近な生活集団についての意義や役割についての理解		同年齢の身近な集団における活動を通して、 ◇新たな環境や人間関係に適応しようとする態度を育成 ○よりよい生活をつくるようとする態度を育成 ○他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成 □日常生活を主体的に改善しようとする態度を育成 □自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考えようとする態度を育成
生徒会活動	異年齢により構成される役割を共有する集団における活動を通して獲得する知識・技能。 自治的組織についての意義や役割についての理解		異年齢により構成する役割を共有する集団における自治的な活動を通して、主に ◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解しようとする態度を育成 ○学校や地域・社会の形成者として、よりよい学校生活を過ごすようとする態度を育成
学校行事	学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して獲得する知識・技能。 行事についての意義や役割についての理解		学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して、主に ◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を理解しようとする態度を育成 ○所属感、連帯感、公共の精神などをもって、よりよい生活をつくるようとする態度を育成 儀式的行事：厳かな場において規律、気品ある行動をとろうとする態度 文化的行事：文化芸術に親しむようとする態度 健康安全・体育的行事：心身ともに健全な生活を実践しようとする態度 満足・集団衛生的行事：自然や文化に親しむようとする態度 勤労生産・奉仕的行事：ボランティア精神、進んで奉仕しようとする態度

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	◇人間関係の大切さ、集団や社会、多様な他者との関係の中でコミュニケーションを図る方法の知識・技能。 ○ホームルーム・学年、学校や地域・社会の形成者として、チームワークの重要性や集団活動における自分の役割やその意義についての知識・技能。 □集団活動の意義の理解や社会規範・マナー、社会的役割や責任の必要性や意義、それに向けて今取り組むべき学習や活動の理解。 □将来設計の立案と社会的移行についての知識・技能。	◇自己や価値観の違う多様な他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、よりよい人間関係を築くことができる力。 ○ホームルーム・学年、学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、責任ある行動をとることができる力。 □自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、日常の生活や自己の在り方を改善することができる力。 □多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して自己の生き方を選択・形成することができる力。	◇自己や価値観の違う多様な他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境や人間関係を生かそうとする態度。 ○ホームルーム・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度。 ○ホームルーム・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題や想定外の事態に対し、多様な他者と協働して解決しようとする態度。 □自己理解の深化や自己受容等に基づき、日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとする態度。 □生きがいややりがいがあり、自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度。
ホーム ルーム 活動	同年齢の身近な集団における活動を通して獲得する知識・技能 身近な生活集団についての意義や役割についての理解	同年齢の身近な集団における活動を通して、 ◇新たな環境や人間関係に適応しようとする態度を育成 ○よりよい生活をつくらうとする態度を育成 ○他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成 □日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとする態度を育成 □自己の生き方や職業を主体的に選択しようとする態度を育成	異年齢により構成する役割を共有する集団における自治的な活動を通して、主に ◇自己や価値観の違う他者の個性を受け入れようとする態度を育成 ○学校や地域・社会の形成者として、よりよい生活をつくらうとする態度を育成
生徒会 活動	異年齢により構成される役割を共有する集団における活動を通して獲得する知識・技能。 自治的組織についての意義や役割についての理解		
学校 行事	学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して獲得する知識・技能。 行事についての意義や役割についての理解	学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して、主に ◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を受け入れようとする態度を育成 ○所属感、連帯感、公共の精神などをもち、よりよい生活をつくらうとする態度を育成 儀式的行事：厳かな場において規律、気品ある行動をとろうとする態度 文化的行事：文化芸術に親しもうとする態度 健康的行事：心身ともに健全な生活を実践しようとする態度 適足・集団衛生的行事：自然や文化に親しもうとする態度 勤労生産・奉仕の行事：ボランティア精神、進んで奉仕しようとする態度	学年や学校など大規模な集団における学校行事を通して、主に ◇自己や価値観の違う多様な他者の個性を受け入れようとする態度を育成 ○所属感、連帯感、公共の精神などをもち、よりよい生活をつくらうとする態度を育成 儀式的行事：厳かな場において規律、気品ある行動をとろうとする態度 文化的行事：文化芸術に親しもうとする態度 健康的行事：心身ともに健全な生活を実践しようとする態度 適足・集団衛生的行事：自然や文化に親しもうとする態度 勤労生産・奉仕の行事：ボランティア精神、進んで奉仕しようとする態度

特別活動における各活動の意義や役割(学級(ホームルーム)活動)(案)

平成28年3月10日
教育課程部活動資料3
ワーキンググループ

学級(ホームルーム)活動

①問題の発見・確認

(i) 学級や学校における生活の諸問題に気づき、その中から議題を学級全員で決定する。話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。
(ii) 日常生活や自己の課題、目標、学業や進路に関する内容について、教師が設定した課題を確認し、解決の見通しをもつ。

○: 情報の収集・整理などを通し、学級や学校生活、地域・社会の課題を発見する力
□: 自己の課題に気づく力、自己の適性を把握する力
□: 目標を設定する力

②解決方法の話し合い

(i) よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。
(ii) 設定された課題の状況や自分の問題の状況を把握し、原因や具体的な解決方法などについて話し合う。

○: 集団活動における自己の役割やその意義についての理解
○: 協働して問題を解決しようとする態度
□: 生活を改善したり、将来を見通して自己の生き方を選択したりできる力

⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

○: 希望や目標をもって現在の生活を改善しようとする態度
○: よりよい生活をつくり出す態度
□: 学級や学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度
□: 自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度

④決めたことの実践

決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践する。

○: 合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
○: 課題解決に向かおうとする情意や態度
○: よりよい生活をつくり出す態度
□: 日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力

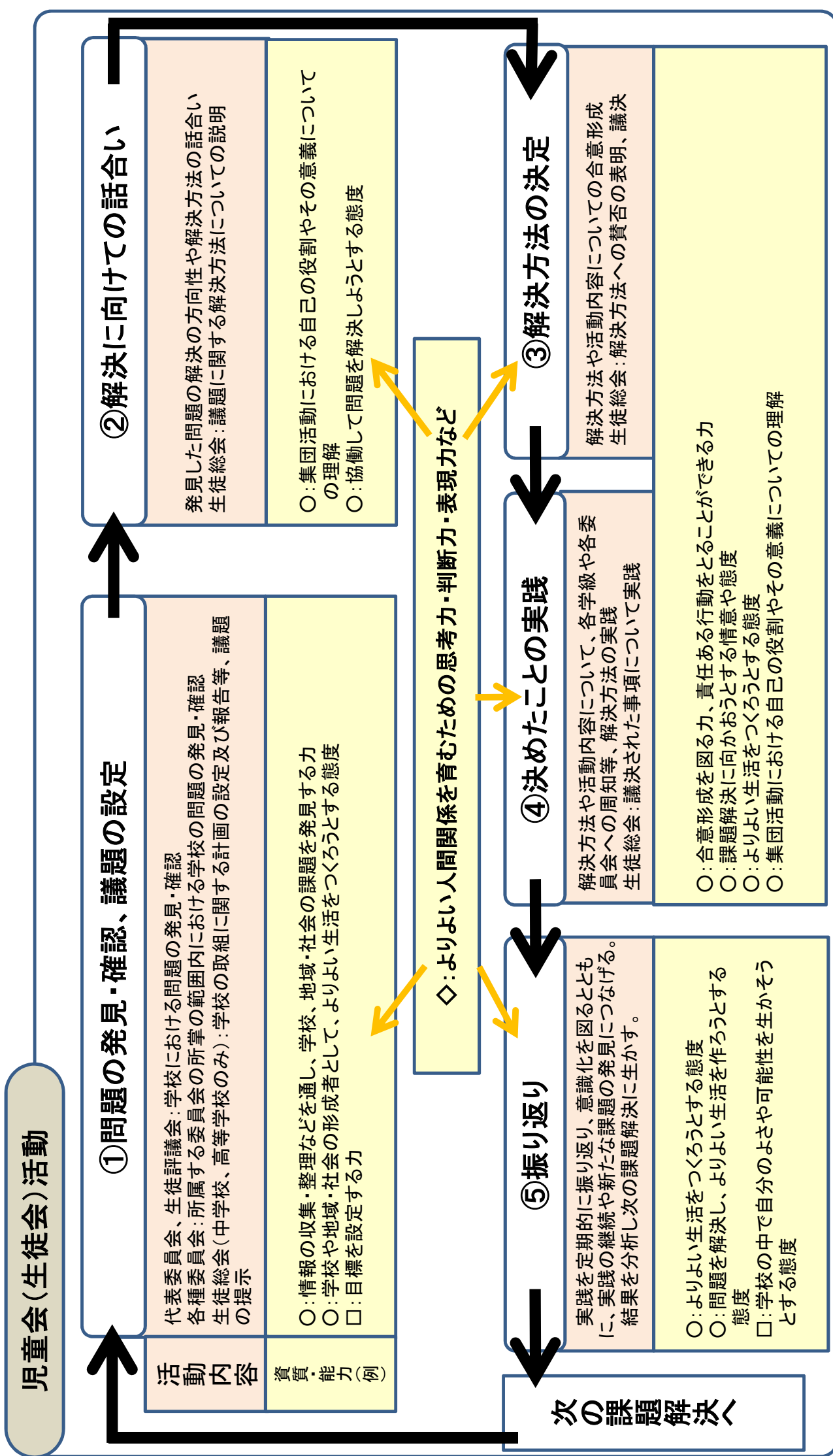
③解決方法の決定

話し合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図ったり、意思決定したりする。

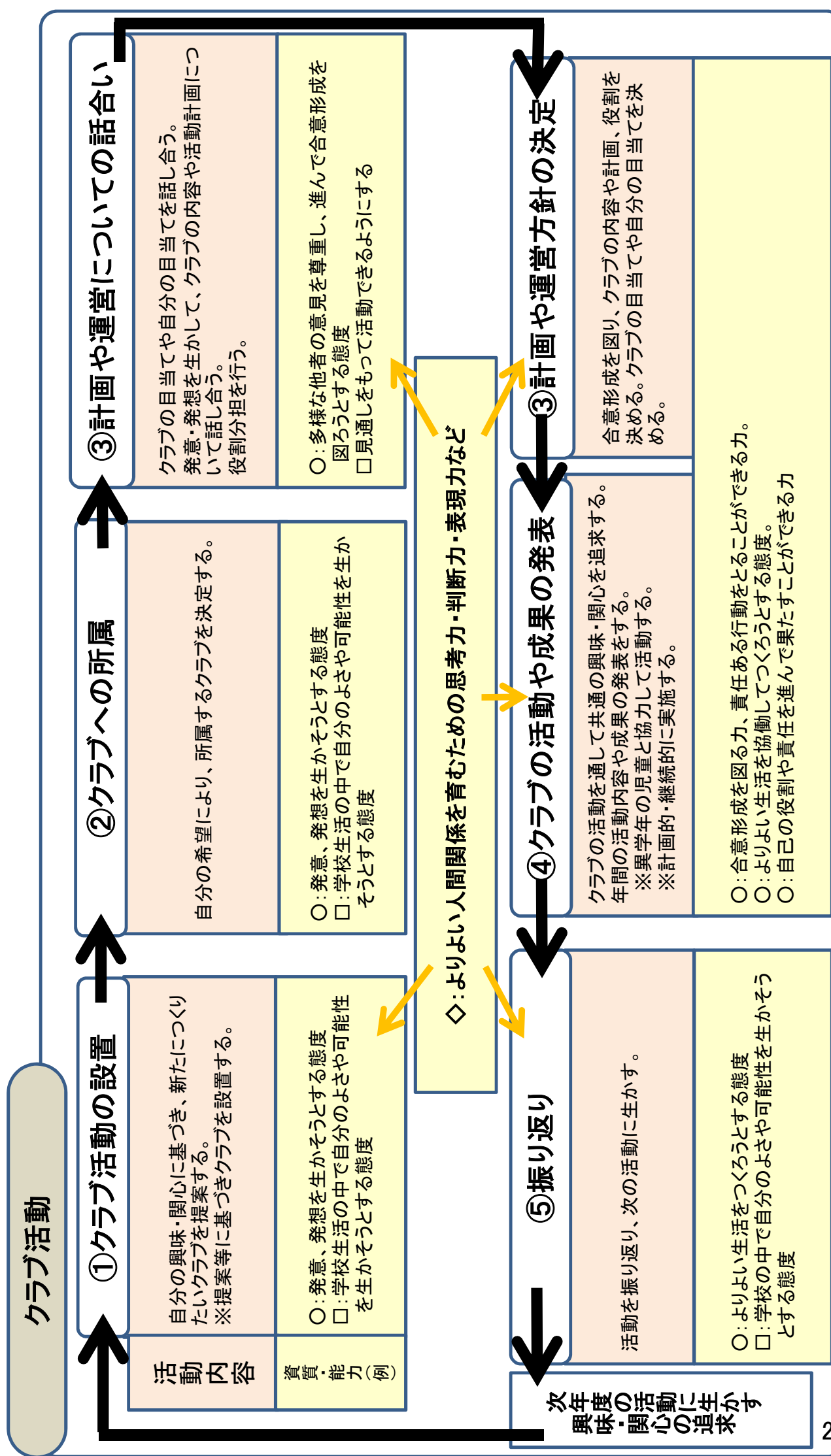
◇: よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

次の課題解決へ

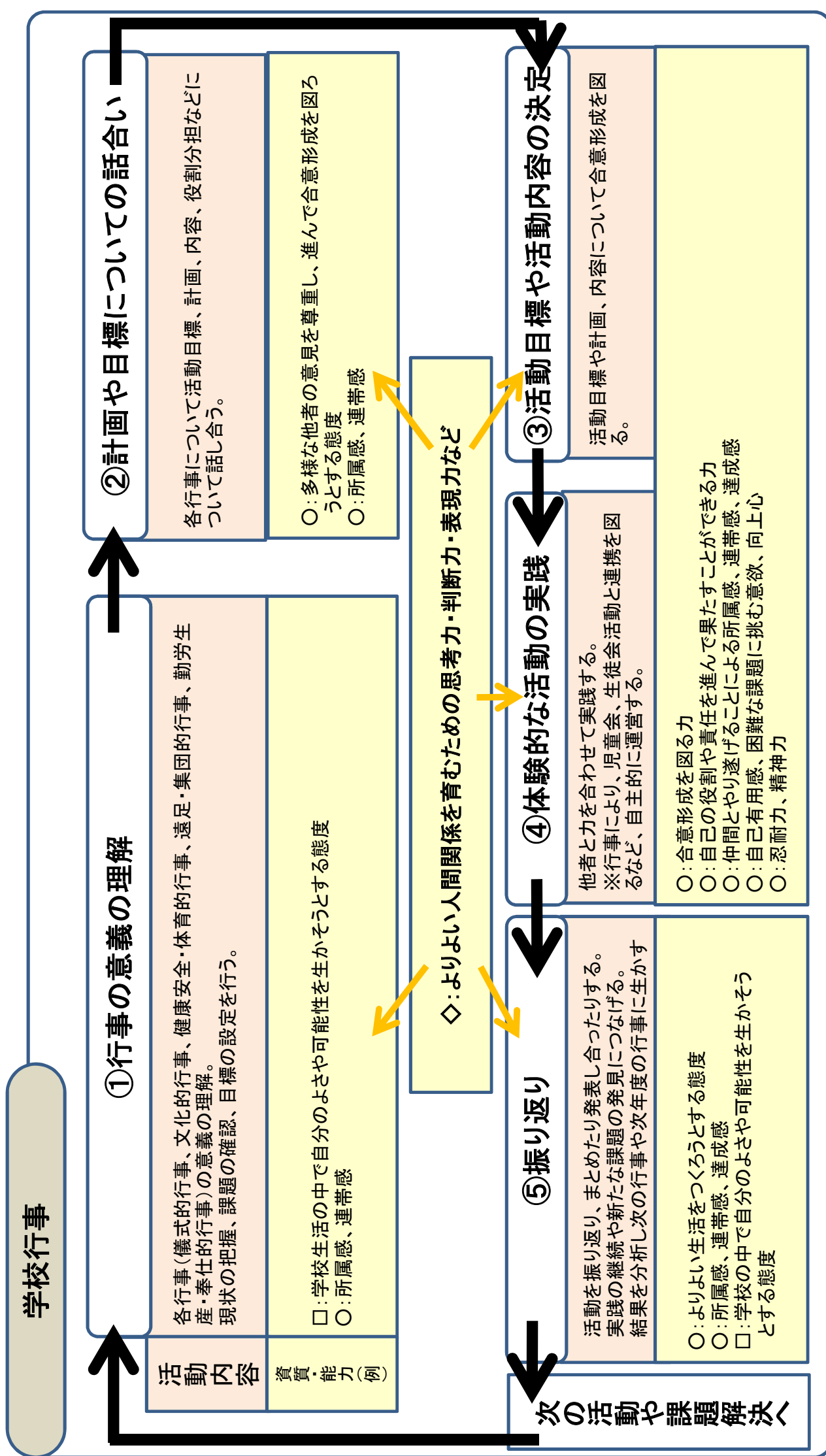
児童会(生徒会)活動における各活動の意義や役割(児童(生徒)会活動)(案)



特別活動における各活動の意義や役割(クラブ活動)(案)



特別活動における各活動の意義や役割（学校行事）（案）



特別活動と各教科との往還について(案)

【特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり】

- ・ 学校、学級づくり(学校文化、学級文化の形成)
- ・ 人間関係形成能力の育成(コミュニケーションや合意形成など)
- ・ 社会参画や自己実現のために必要な力

特別活動

各教科等

往 還

【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】

- ・ 各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動の中で生かす
- ・ 自己の生活や進路、キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返りを行う

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
小学校	● 進んでよりよい人間関係を築く力など、他者の考えや個性を知り、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えるための知識・技能 ● 自分らしさの理解など、自身のよさを知り、自分らしい言葉や行動を選ぶための知識・技能 ● 必要な情報を探し、選ぶ力など、役割を果たすために課題を発見・解決するための知識・技能 ● 学ぶこと・働くことの大切さの理解、様々な生き方の理解など、自らが果たすべき役割との関連を踏まえて「働くこと」の意義を理解するための知識・技能	● チームワーク、リーダーシップなど、自他のよさや個性を理解し、他者と協力・協働して社会に参加する力 ● 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ主体的に行動する力 ● 必要な情報を整理する力、ものごとを計画的に進める力など、課題を発見し、計画を立て、解決することができる力 ● 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得など、主体的に将来の自分を思い描き、自らキャリアを形成していく力	● 学級や学校の生活づくりに進んで参加しようとする態度 ● 自分のすべきこと、よいと思うことを考え、取り組みようとする態度 ● 計画・実行・評価・改善など、失敗を恐れずに最後までやり通そうとする態度 ● 自分にふさわしい生き方を主体的に考えようとする態度
中学校	● 時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーション・スキルなど、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えるための知識・技能 ● 自己の肯定的理解、ストレスマネジメントなど、今後の自分自身の可能性を含めて肯定的に自己の役割を理解し、自らの思考や感情を律するための知識・技能 ● 情報の理解・選択、本質の理解、原因の追究など、仕事を上での様々な課題を発見・分析するための知識・技能 ● 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、生き方の多様性の理解・受容など、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」の意義を理解するための知識・技能	● チームワーク、リーダーシップなど、自分の置かれている状況を理解し、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参加する力 ● 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ主体的に行動する力 ● 情報の処理、計画立案、実行力など、課題を発見し、計画を立て、解決することができる力 ● 将来に関わる暫定的な計画の立案など、生き方に関する様々な情報を適切に処理しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	● 社会に積極的に参加しようとする態度 ● 意欲、主体性、忍耐力など、前向きに考え今後の成長のために進んで学ぼうとする態度 ● 計画・実行・評価・改善など、粘り強く物事を前に進めていこうとする態度 ● 主体的に判断して自らキャリアを思い描こうとする態度
高等学校	● 時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーション・スキルなど、多様な他者の考えや立場を受容し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えるための知識・技能 ● 自己の肯定的理解、ストレスマネジメントなど、今後の自分自身の可能性を含めて肯定的に自己の役割を理解し、自らの思考や感情を律するための知識・技能 ● 多様な情報の理解・選択、本質の理解、原因の追究など、仕事を上での様々な課題を発見・分析するための知識・技能 ● 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、社会的移行への準備、生き方の多様性の理解・受容など、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」の意義を理解するための知識・技能	● 他者に働きかける力、チームワーク、リーダーシップなど、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画する力 ● 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ主体的に行動する力 ● 多様な情報の処理、計画立案、実行力など、適切な計画を立てて課題を処理し、解決することができる力 ● 将来に関わる計画の立案や設計・実行・修正のなど、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	● 必要があれば自ら新たな社会を創造・構築していくことを含め、今後の社会を積極的に形成しようとする態度 ● 自己の動機づけ、主体性、忍耐力など、前向きに考え今後の成長のために進んで学ぼうとする態度 ● 計画・実行・評価・改善など、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていこうとする態度 ● 主体的に判断して生涯にわたってキャリアを自ら形成していこうとする態度

学校内での学びと、その学びにリアリティーを持たせる実社会での体験活動（職場体験、インターンシップなど）との往還を重視

産業教育ワーキンググループにおける検討事項

1. 職業に関する各教科を通じて育成すべき資質・能力について

- ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
- ・ 職業に関する各教科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
- ・ 職業に関する各教科の科目構成について

2. これまでの実験・実習などの実践的、体験的な学習活動の成果やアクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき指導等の改善充実の在り方について

（三つの視点）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

3. 国家資格や各種検定、研究発表会や競技会等の活用を含めた、資質・能力の育成のために重視すべき評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※ なお、検討を進めるにあたっては、専門分野ごとに求められる資質・能力を産業界や関係団体等との間で共有化しながら、以下の事項にも留意する。

- ①職業人として求められる専門的な知識及び技術の高度化や、職業の多様化への対応
- ②社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等の醸成、豊かな人間性の涵養
- ③地域や産業界との連携・交流を通じた、地域の産業や社会を担う人材の育成

産業教育のイメージ(案)

(高等学校専攻科)

※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程(修業年限1年以上)。

【高等学校】 (産業教育)

職業に関する各教科の見方や考え方を踏まえ、産業・社会の課題を捉えてその解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通し、以下の資質・能力を育成する。

- ① 各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。
- ② 各職業分野に関する課題(求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。
- ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

(共通教科)

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

【義務教育】

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。



多様な評価手法



高等学校基礎学力
テスト(仮称)

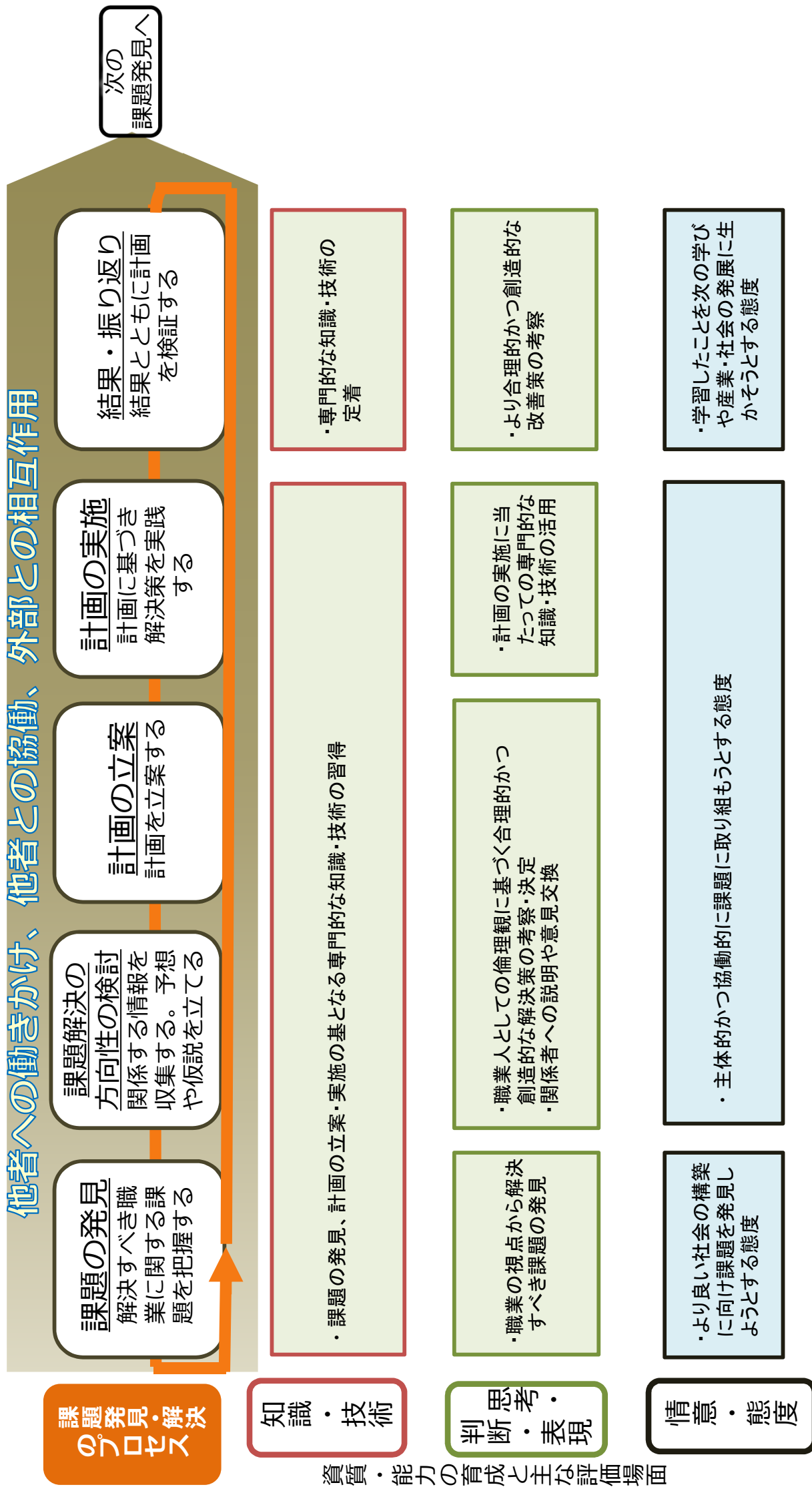


全国学力・学習状況調査

資質・能力の三つの柱に沿った、職業に関する各教科において育成すべき資質・能力の整理（案）

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
産業教育 全体	- 各職業分野に関する知識と技術 - 各職業の社会的意義や役割の理解	各職業分野に関する課題(求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
農業	- 農業の各分野に関する知識と技術 - 農業の社会的意義や役割の理解	農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
工業	- 工業の各分野に関する知識と技術 - 工業の社会的意義や役割の理解	工業の各分野に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 工業を支える職業人として必要な豊かな人間性 - より良い工業と社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
商業	- 商業の各分野に関する知識と技術 - ビジネスの社会的意義や役割の理解	ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
水産	- 水産や海洋の各分野に関する知識と技術 - 水産業及び海洋関連産業の社会的意義や役割の理解	水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
家庭	- 生活産業に関する知識と技術 - 生活産業の社会的意義や役割の理解	生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指す主体的かつ協働的に取り組む態度
看護	- 看護に関する知識と技術 - 看護の社会的意義や役割の理解	看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度
情報	- 情報の各分野に関する知識と技術 - 情報産業の社会的意義や役割の理解	情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
福祉	- 福祉の各分野に関する知識と技術 - 福祉の社会的意義や役割の理解	福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力	- 職業人として必要な豊かな人間性 - より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

産業教育における学習のプロセス（イメージ案）



* 上記のプロセスや評価場面は例示であり、これらに限定されたり、この全ての機会において評価を行うことが必ずしも求められるものではない。

職業に関する各教科の今後の在り方について(案)

農業科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・安全・安心な食料の持続的・安定的な生産と供給の必要性
- ・TPP等による農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化等への対応
- ・農業の技術革新と高度化への対応
- ・消費者ニーズと食をめぐる課題の多様化への対応
- ・森林等国土保全や地域資源の有効活用との必要性
- ・農業・農村の有する多面的機能の維持への対応

育成する人材像

- ・農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
農業の各分野に関する知識と技術、農業の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・農産物の生産や経営の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営改善に向けて考察すること
- ・農産物の加工や流通の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営改善に向けて考察すること
- ・農地や森林の保全、環境修復・再生の視点から農業や関連産業を捉え、地域の環境創造に向けて考察すること
- ・農業生物や地域資源の活用の視点から農業や関連産業を捉え、地域創造と生活の質的向上に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・現在の「農業経営、食品産業分野」と「バイオテクノロジー分野」を再構造化し、バイオテクノロジーを含む「農業生産や農業経営の分野」と「食品製造や食品流通の分野」に整理
- ・農業の各分野において、持続可能で多様な環境に対応した学習の充実
- ・農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るための学習の充実「農業生産や農業経営の分野」
- ・安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実「農業生産や農業経営の分野、食品製造や食品流通の分野」
- ・農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実「農業生産や農業経営の分野」
- ・農業の持つ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実「国土保全や環境創造の分野、資源活用や地域創造の分野」

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・農業における知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた創造的・実践的な学び
- ・農業の意義を理解し、地域農業の具体的な事例を取り上げ、その課題を発見するための、調査、研究、実験などの学び
- ・地域課題を主体的・協働的に解決するための、プロジェクト学習による産業界等との共同研究や商品開発などの学び（学校農業クラブ活動等）
- ・産社会で実践する力を磨くための、学校農場等での農業実習や産業現場における就業体験などの学び

工業科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・ものづくり産業を担う創造性をもった人材を育成することの必要性
- ・若年技術者・技能者の育成を図るため、ものづくり産業における技術や技能を伝承することの必要性
- ・安全・安心な社会の構築に向けて、職業人としての倫理観を高めることの必要性
- ・地球温暖化など環境保全や、資源の枯渇、電力や化学をはじめとするエネルギーの有効な活用に関する課題への対応
- ・標準化の確立による競争など、産業のグローバル競争が激化することへの対応
- ・IoT(ものづくりの効率化と生産性向上を図るもののインターネット)や、製造現場等で人と協調する自動化システム(人工知能等)の技術革新の開発が加速することなど、情報技術の発展への対応

育成する人材像

- ・ものづくりを通して、地域産業を支え新たな時代を切り拓く創造性豊かで実践的な職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
工業の各分野に関する知識と技術、工業の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
工業を支える職業人として必要な豊かな人間性、より良い工業と社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・安全で安心な製品を提供する視点からものづくりを捉え、社会を支える付加価値の高い創造的な製品の開発を目指して、製造現場における合理的なものづくりの方策の活用に向けて考察すること
- ・工業の各分野で情報化が図られている視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、高度に発展する情報技術の有効な活用に向けて考察すること
- ・持続可能な社会の構築の視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、資源・エネルギーの有効活用、環境保全に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・工業の各分野で横断的に履修する科目について、知識や技術及び技能の活用に関する学習の充実
- ・技術の高度化や情報技術の発展等への対応に関する学習の充実〔工業の各分野〕
- ・環境問題や省エネルギーに対応した学習の充実〔工業の各分野〕
- ・グローバルな視点を取り入れた学習の充実〔工業の各分野〕
- ・電子機械に関わる知識と技術の活用に関する学習の充実〔電子機械の分野〕
- ・組込み技術について知識と技術の一体的な習得を図る学習の充実〔情報技術、電子の各分野〕
- ・耐震技術やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習の充実〔建築、土木の各分野〕

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・知識や技術などを身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実験や実習など、ものづくりに関する実践的な学び
- ・工業の意義や工業技術を理解し、工業に関する課題を発見するための、具体的な事例を取り上げ、科学的な根拠を踏まえた考察や討論などの学び
- ・身に付けた知識や技術及び技能を活用するため、研究開発や地域の課題の解決につながる産業界等と協働した製品の考案などの学び
- ・法令遵守や技術者倫理を高めるための、産業現場での事故や事件に関する事例を活用した協議や振り返りによる学び

商業科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・グローバル化の急速な進展への対応
- ・ICTの進歩とインターネットを活用したビジネスの普及への対応
- ・観光立国を目指した観光産業の振興の必要性
- ・地域ビジネスの活力の低下への対応
- ・コミュニケーション能力の低下への対応

育成する人材像

- ・ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
商業の各分野に関する知識と技術、ビジネスの社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・マーケティングの視点から企業活動を捉え、企業の発展を目指して、顧客満足の実現と顧客の創造に向けて考察すること
- ・マネジメントの視点から企業活動を捉え、企業の発展を目指して、経済社会の動向や法令等を踏まえた適切な意思決定に向けて考察すること
- ・会計の視点から企業活動を捉え、企業の発展を目指して、適切な会計情報の提供及び効果的な会計情報の活用に向けて考察すること
- ・情報の視点から企業活動を捉え、企業の発展を目指して、ビジネスに関する情報の適切な処理及び情報や情報通信技術の効果的な活用に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実
[マーケティング分野]
- ・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実 [総合的科目]
- ・マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得 [マーケティング分野]
- ・ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実 [マネジメント分野]
- ・経済のグローバル化に関する学習の充実 [マネジメント分野]
- ・情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実 [ビジネス情報分野]
- ・プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得 [ビジネス情報分野]
- ・情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化 [ビジネス情報分野]

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実験的・実証的な学び
- ・ビジネスの意義や実際のビジネスを理解し、ビジネスの課題を発見するための、具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・企画力や創造力を養うための、産業界等との協働による商品の開発やビジネスの考案などの学び
- ・実社会で実践する力を磨くための、地域における模擬株式会社経営などの学び

水産科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・水産業との共存を図った持続可能な海洋利用への対応
（海洋環境保全、海洋開発、里海づくり等）
- ・水産物需要の世界的な変化に対応した競争力のある水産業への対応（ＴＰＰ、輸出促進、技術革新等）
- ・資源管理を考慮した品質重視型漁業への対応（ブランド化、HACCP、トレーサビリティ等）
- ・活力ある生産構造の構築の必要性
（六次産業化、加工品の開発、魚食普及等）
- ・産業のグローバル化への対応
（海上交通等の国際標準化、加工施設・養殖施設の海外進出等）

育成する人材像

- ・水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
水産や海洋の各分野に関する知識と技術、水産業及び海洋関連産業の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・海洋漁業の視点から水産や海上交通を捉え、環境や資源等に配慮した安全で経済的な漁業や船舶運航の実現に向けて考察すること
- ・海洋工学の視点から船舶や海洋関連機器を捉え、環境に配慮した安全で経済的なマリンエンジニアリングの実現に向けて考察すること
- ・情報通信の視点から海上における情報伝達を捉え、セキュリティを考慮した円滑な通信業務の実現に向けて考察すること
- ・資源増殖の視点から水生生物を捉え、生態系や環境に配慮した安全で経済的な養殖業の実現に向けて考察すること
- ・水産食品の視点から食品の製造や流通を捉え、品質管理・衛生管理を考慮した安全で経済的な水産食品の持続的な供給に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・水産の各分野において、海面の多様な利用を踏まえ、海洋環境基準及び環境保全等に対応した学習の充実
- ・水産の各分野において、水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応した学習の充実
- ・水産の各分野において、船舶や企業内における情報セキュリティや、食品の安全に関わる産業としての危機管理に関する学習の充実
- ・水産物・水産加工品の品質管理・衛生管理に関する学習の充実〔海洋漁業、資源増殖、水産食品の各分野〕
- ・漁業、水産加工業における基礎的・基本的な経営に関する学習の充実〔海洋漁業、資源増殖、水産食品の各分野〕
- ・漁船をはじめとした船員養成の国際基準等に対応した学習の充実〔海洋漁業、海洋工学、情報通信の各分野〕

学びの例 ～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・水産や海洋における知識や技術などを身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実験や実習など実践的な学び
- ・水産業や海洋関連産業の意義を理解し、実際の地域産業における具体的な事例を取り上げ、その課題を発見するための考察や討論などの学び
- ・地域の課題を解決する企画力や創造力を養うための、産業界等との協働による商品の開発や知的財産権などの学び
- ・産業社会で実践する力を磨くための、実習船や産業現場における長期の実習などの学び

家庭科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・食育の推進や専門性の高い調理師養成への対応
- ・少子高齢化への対応
- ・価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等、現代的な課題への対応
- ・グローバル化を踏まえた生活文化の伝承・創造の必要性
- ・地域産業の活性化を図るためのマネジメント能力を育成する必要性
- ・生徒の生活体験の減少等により基礎的・基本的な技術の定着を図る必要性

育成する人材像

- ・生活の質の向上や社会の発展を図る生活産業を通して、地域や社会を支える人間性豊かな職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
生活産業に関する知識と技術、生活産業の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度
- 見方や考え方等
- ・人間の生活を豊かに支える生活産業の視点から、衣食住、ヒューマンサービス等に係る生活事象を捉え、協力・協働、健康・快適・安全な生活の創造、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・調理師法施行令、調理師法施行規則の改正（平成27年4月1日施行）に伴う科目の再編成〔食分野〕
- ・食育の推進等、食に関する学習の充実〔食分野〕
- ・子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実〔ヒューマンサービス分野〕
- ・高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実〔ヒューマンサービス分野〕
- ・複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実〔消費生活分野〕
- ・生活文化の伝承・創造に関する学習の充実〔衣食住分野〕
- ・職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実〔家庭の各分野〕

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・知識や技術を身に付けるための、科学的根拠を踏まえた実践的・体験的な学び
- ・生活産業の意義やその社会的役割、職業や関連する資格について理解し、課題を発見するために具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・マネジメント能力や創造力を育成するために、産業界等との協働による商品開発や企画・提案などの学び
- ・職業人として家庭と地域の生活を豊かに支える視点から、地域との連携を一層深める学び（学校家庭クラブ活動等）

看護科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・ 少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などへの対応
- ・ 多様な患者の状態に応じた医療事故の防止と医療安全の推進への対応
- ・ 医療に関する多様な倫理的課題への対応

育成する人材像

- ・ 看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
看護に関する知識と技術、看護の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・ 看護の視点から健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考察すること

科目構成の方向性

- ・ 多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実
- ・ 医療安全に関する学習の充実
- ・ 各領域における倫理的課題に関する学習の充実

学びの例

～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 看護に関する知識・技術の科学的根拠を理解するための、実験・実習や調べ学習による体験的・実証的な学び
- ・ 看護に関する知識・技術を確実に身に付けるための、ICTを活用した教材や振り返り、異学年交流、プロジェクト学習などを講義・実習に取り入れた主体的な学び
- ・ 看護実践力を養うための、多様な課題を設定した演習や臨地実習などによる応用的な学び
- ・ 生命倫理や権利擁護、多様な価値観などについて理解を深めるための、事例を活用した協議や振り返りによる深い学び

現状と課題

- ・知識基盤社会の到来とグローバル化による情報社会の進展への対応
- ・高度な技術を持つIT人材の需要増大への対応
- ・特にインターネット、Webコンテンツの作成、セキュリティ、情報処理サービス、ソフトウェア関連の人材養成の必要性
- ・将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会への対応

育成する人材像

- ・情報関連産業を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術情報の各分野に関する知識と技術、情報産業の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・システムの設計・管理の視点から情報社会を捉え、情報セキュリティを保ちつつ、日常生活や社会に必要なシステムを構築することを目指して情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考察すること
- ・情報コンテンツの制作・発信の視点から情報社会を捉え、日常生活や社会に必要なコンテンツを制作することを目指して、情報セキュリティを保ちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習の一層の充実【各分野に共通した科目】
- ・情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育成する学習の一層の充実【情報コンテンツの制作・発信分野の科目】
- ・システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得【各分野に共通した科目】
- ・情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得【情報コンテンツの制作・発信分野の科目】
- ・問題解決やプログラミングに関する学習の充実【各分野に共通した科目】
- ・統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実【各分野に共通した科目】
- ・データベースの応用技術に関する学習の充実【システムの設計・管理分野の科目】
- ・ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実【システムの設計・管理分野の科目】
- ・コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実【情報コンテンツの制作・発信分野の科目】

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・情報の科学的理解を深めるための、実践的、体験的な学び
- ・情報産業の意義や実際の職務内容を理解し、情報産業の課題を発見するための、具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・高度な技術力を養うための、産業界等との協働によるソフトウェア開発等を通じた学び
- ・実社会で実践する力を磨くための、地域との協働によるコンテンツ開発等を通じた学び

福祉科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・ 医療的ケアなど福祉ニーズの高度化と多様化への対応
- ・ 福祉実践における倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働を進める能力等への対応
- ・ ICT・介護ロボットなど福祉機器を活用した福祉実践への対応

育成する人材像

- ・ 福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 個別の知識・技術
福祉の各分野に関する知識と技術、福祉の社会的意義や役割の理解
- 思考力・判断力・表現力等
福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する能力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

見方や考え方等

- ・ 福祉の視点から生活に関わる問題を捉え、人間としての尊厳の保持と自立支援に向けて考察すること

科目構成の方向性

- ・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
- ・ 福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
- ・ 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
- ・ 福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
- ・ 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

学びの例

～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 福祉に関する知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実践的・体験的な学び
- ・ 自立生活支援を目指した介護の意義と役割を理解し、具体的な事例検討による考察や課題解決に向けた学び
- ・ 社会調査や統計分析などの地域社会における多様な福祉ニーズを科学的に捉えるための、実証的・研究的な学び
- ・ 福祉の実践力を養うための実習施設などとの連携による協働的な学び

職業に関する各教科別参考資料

9

農業科における系統表・構成表(現行)

教科の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義と役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像：地域農業をはじめ地域産業の健全で持続的な発展を担う職業人(将来の地域農業を担う人材、人間性豊かな職業人)

育成する力

○農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術

○農業の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決する能力

○農業の社会的な意義や役割を理解する力

○持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力

○農業に関する実践的な態度

4つの分野と科目構成

農業経営、食品産業分野

農業経営や食品産業の基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

農業経営

農業機械

農業経済

食品流通

作物
野菜
果樹
草花
畜産

食品製造

食品化学

微生物利用

バイオテクノロジー分野

農業におけるバイオテクノロジーの基礎的・基本的な知識と技術を並びに実践的な態度

植物バイオテクノロジー

動物バイオテクノロジー

環境創造・素材生産分野

林産物の生産や経営及び国土の保全と創造についての基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

林産物利用

農業土木設計

環境緑化材料

森林経営

農業土木施工

造園設計

森林科学

水循環

造園技術

測量

ヒューマンサービス分野

農業生物や地域資源を活用した対人サービスの基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

生物活用

グリーンライフ

共通的な科目

農業と環境

農業情報処理

総合実習

課題研究

工業科における系統表・構成表（現行）

教科の目標
工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

【育成する人材像】 工業技術・技能の基礎・基本を習得しており、自ら手を動かすことに慣れていることから、実践を通して思考・判断・表現できる点で、ものづくりに対して優れている人材

【育成する力】
○工業技術や社会の持続可能な発展を図るために必要となる知識や技術・技能
○中学校までに身に付けた科学的な見方や考え方、ものづくりの技能を基盤として、工業各分野の知識や技術・技能をものづくりをおこなう中で、産業や社会とのつながりも意識して、答えが一つに定まらない課題に対して、自ら解を見出していくこととする思考力・判断力・表現力等
○地域で課題となっていることに対して、主体性を持って、多様な人々と協働しつつ、「どのようなものをいかに作るか」について学ぶ態度
○工業製品を高校生の視点や好奇心で見たと、改善する点を見いだし提案することができる態度
○入学した時点で期待できる特定の成長過程があったとしても、学校や授業の状況などから、工業の学びを通して、生徒の成長に応じてさらに変化をうながすことができることから、自らが変革を牽引できるスペシャリストの育成

工業の各分野と科目構成

原則履修科目「工業技術基礎」	各学科における共通の基礎的・基本的な内容で、かつ基礎的・情報技術基礎	各学科の特色や生徒の進路希望により選択して履修する科目… （材料技術基礎・生産システム技術・工業技術英語・工業管理技術・環境工学基礎）	工業技術基礎	機械に関する分野	・機械技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、製品の設計・加工・製造等に関する機械技術の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	
					・機械に関する学科の科目：「機械工作」「機械設計」「原動機」	
					電子機械に関する分野	・電子機械技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、諸要素を組み合わせた制御に関する電子機械技術の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
						・電子機械に関する学科の科目：「電子機械」「電子機械応用」
					自動車に関する分野	・自動車技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、自動車に関する諸情勢・法規や規格・環境や資源エネルギー・安全・車体構造等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度を育てる。
						・自動車に関する学科の科目：「自動車工学」「自動車整備」
					電気に関する分野	・電気技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、電気現象・電氣的諸量の相互関係、各種電気機器の原理・構造・特性・取扱い、電力の供給・運用等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
						・電気に関する学科の科目：「電気基礎」「電気機器」「電力技術」「電子技術」
					電子に関する分野	・電子技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、電子回路要素の特性・機能、構成・取扱い、計測制御システム、情報通信システム等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
						・電子に関する学科の科目：「電子回路」「電子計測制御」「通信技術」「電子情報技術」
					情報技術に関する分野	・情報技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、コンピュータにおける技術革新やその活用等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
						・情報技術に関する学科の科目：「プログラミング技術」「ハードウェア技術」「ソフトウェア技術」「コミュニケーション技術」
					建築に関する分野	・建築技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、建築物を合理的に、かつ倫理観をもって設計し、施工することに関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
						・建築に関する学科の科目：「建築構造」「建築計画」「建築構造設計」「建築施工」「建築法規」
					設備工業に関する分野	・設備工業技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、各種建築物の諸条件に適合した空気調和・給排水衛生設備などの設計、施工、保守管理に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度
・設備工業に関する学科の科目：「設備計画」「空気調和設備」「衛生・防災設備」						
土木に関する分野	・土木技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、社会基盤の整備を合理的に、かつ倫理観をもって設計し、施工することに関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・土木に関する学科の科目：「測量」「土木基礎力学」「土木構造設計」「土木施工」「社会基盤工学」					
化学工業に関する分野	・化学工業技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、物質の性質や変化、プラントの装置、計測・制御及び環境保全等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・化学工業に関する学科の科目：「工業化学」「化学工学」「地球環境化学」					
材料技術に関する分野	・材料技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、各種工業材料の製造、組織、性質、保全、用途等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・材料技術に関する学科の科目：「材料製造技術」「金属材料」「材料加工」					
セラミックに関する分野	・セラミック技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、セラミックの原料、組織、物性、製造、用途等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・セラミックに関する学科の科目：「セラミック化学」「セラミック材料」「セラミック工業」					
繊維に関する分野	・繊維技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、繊維製品の製造、染色技術、繊維工業の製品化等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・繊維に関する学科の科目：「繊維製品」「繊維・染織技術」「染織デザイン」					
インテリアに関する分野	・インテリア技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、インテリアの計画・設計・施工・管理及び空間を構成するインテリア要素の企画・設計・生産技術に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・インテリアに関する学科の科目：「インテリア計画」「インテリア装飾」「インテリア要素生産」					
デザインに関する分野	・デザイン技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、プロダクトデザインの意義、要素、用途に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度					
	・デザインに関する学科の科目：「デザイン技術」「デザイン見直し」「デザイン史」					

水産科における系統表・構成表（現行）

教科の目標

水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像：実践的な学習を通して知識・技術を習得し、水産業や海洋関連産業の健全な発展を担う職業人

育成する力

- 水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術
- 水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解する力
- 水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決する能力
- 持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力
- 水産や海洋関連産業に関する実践的な態度

5つの分野と科目構成

原則履修科目		水産海洋基礎			課題研究				
海洋漁業分野		海洋工学分野		情報通信分野	資源増殖分野	水産食品分野			
漁業生産や船舶運航等に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる		船用機関や海洋工学等に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる		無線通信士や通信機器に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる	水産増養殖や海洋生物に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる	水産食品の製造、管理及び流通に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる			
漁業	航海・計器	船用機関	機械設計 工作	電気理論	移動体通信 工学	資源増殖	海洋生物	食品製造	食品管理
船舶運用	小型船舶	電気理論		海洋通信 技術	海洋情報 技術	海洋環境	小型船舶	水産流通	
水産流通		海洋環境	小型船舶			水産流通			
共通的な科目		総合実習		海洋情報技術	水産海洋科学	ダイビング	マリンスポーツ		

13

家庭科（専門）における系統表・構成表（現行）

教科の目標

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像

少子高齢社会の進展や食育の推進、ライフスタイルの多様化に対応した、衣食住、保育等のヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリスト

育成する力

- 家庭の生活に関わる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術
- 生活産業の社会的な意義や役割の理解
- 生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度

分野と科目構成

課題研究（原則履修科目）

衣分野

服飾文化
ファッション造形基礎
ファッション造形
ファッションデザイン
服飾手芸

食分野

フードデザイン
調理師養成課程履修科目
食文化 調理 栄養
食品 食品衛生
公衆衛生

住分野

リビングデザイン

ヒューマンサービス分野

子どもの発達と保育
子ども文化
生活と福祉

生活産業基礎（原則履修科目）

生活産業情報

消費生活

看護科における系統表・構成表（現行）

教科の目標	看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。
育成する人材像	地域社会の医療を支え、国民の健康の保持増進に寄与する人材

専門性の高い看護判断能力

安全で確実な看護技術

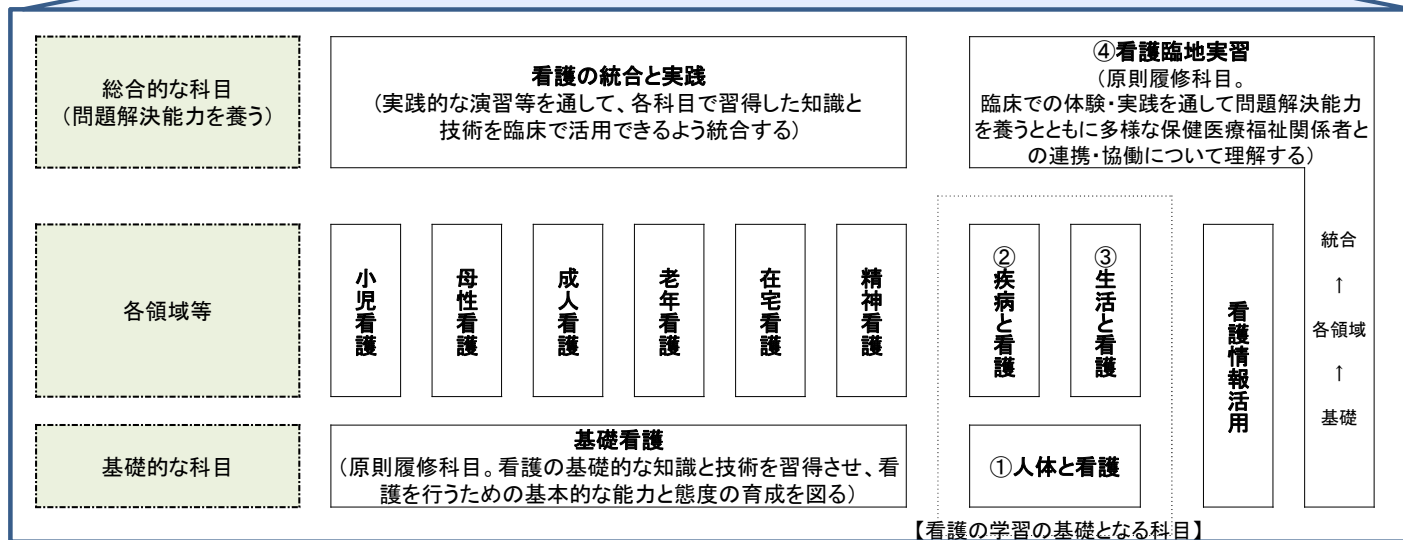
看護倫理

コミュニケーション能力

豊かな人間性

専攻科
2年

高校
1年



【①～④の学習内容】

①人体と看護－人体の構造と機能、栄養、感染と免疫

②疾病と看護－疾病の成り立ちと回復の過程、薬物と薬理

③生活と看護－精神保健、生活と健康、社会保障制度と福祉

④看護臨床実習－基礎看護、小児看護、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護、在宅看護、看護の統合と実践

15

情報科（専門）における系統表・構成表（現行）

教科の目標
情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像
情報に関する知識と技術を習得し、変化の激しい情報社会に対応するために学び続けるとともに、地域の企業等の問題を発見し解決することができる人材

【総合的科目】

課題研究(原則履修科目)

【各分野の科目】

システムの設計・管理分野の科目

情報システム実習

アルゴリズムと
プログラム

ネットワーク
システム

データベース

情報コンテンツの制作・発信分野の科目

情報コンテンツ実習

情報メディア

情報デザイン

表現メディアの
編集と表現

【基礎的科目】

情報の表現と管理

情報と問題解決

情報テクノロジー

情報産業と社会(原則履修科目)

教科の目標

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像

地域福祉をはじめ福祉社会の健全で持続的な発展を担う職業人

科目の構成(9科目)

人間と社会	介護	こころとからだの理解
社会福祉基礎 福祉情報活用	介護福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術 介護過程 介護総合演習 介護実習	こころとからだの理解 ※医療的ケアを含む

福祉・介護人材

演習・実習領域(介護総合演習・介護実習)

介護方法・技術領域
(コミュニケーション技術・生活支援技術・介護過程)

福祉情報活用

人体及び障害等の医療領域
(こころとからだの理解)

基礎領域(社会福祉基礎・介護福祉基礎)